

第 24 回 第 2 次瀬戸市教育アクションプラン推進会議
議 事 録

日 時：令和 8 年 7 月 22 日（水）午後 3 時 00 分から 3 時 55 分まで

場 所：瀬戸市役所 4 階大会議室

出席者：（敬称略）

<会長> 吉田 淳

<副会長> 森 理恵

<委員> 阿久原 いずみ、一尾 茂正、大崎 和憲、加藤 淳、加藤 中哉、加藤 博樹、鈴木 紹陶武、中島 なぎさ、丹羽 光成、福岡 明、和佐田 強（50 音順）

<オブザーバー> 川原 知佐栄（文化課長）、川合 佐（スポーツ課課長補佐兼係長）、横井 達巳（コミュニティ推進課主幹）、井上 紀和（多様性協働課長）、戸田 律子（こども未来課長）、鈴木 雅喜（こども若者家庭センター長）

<事務局> 加藤 正彦（教育長）、大岩 三明（教育部長）、荻原 美帆（教育政策課長）、松見 健一（学校教育課長）、伊藤 嘉浩（学校教育課主幹）、長谷川 武宏（学校教育課主幹）、吉村 きみ（図書館長）、松浦 慎造（教育政策課課長補佐兼企画補佐）、國松 一彰（教育政策課専門員兼指導主事）、谷山 隼（教育政策課企画係長）、奥村 祐麻（教育政策課施設係長）、峯藤 駿佑（教育政策課主任）

議事録：

1 会長あいさつ

吉田会長からあいさつがあった。

2 審議事項

令和 8 年度瀬戸市教育委員会事務の管理及び執行の状況の点検・評価報告書（対象：令和 7 年度）（案）について
事務局から資料 2 に基づき説明。

会 長：委員からご意見を伺いたいと考えております。

委 員：個人的な考えかもしれませんが、本プランは、例えば、1 学級の児童生徒数や先生の人数、障害児は特別支援学校、健常児は通常学校など、現在の教育制度、また、現在の社会の仕組みを前提としたものであると思いますし、

加えて、それらの仕組みや制度から生じた課題や問題点への対応であるように思っています。では、私の担当した箇所について少しお話しさせていただきます。まず、基本施策 1 と 2 についてです。毎日、各校のホームページを楽しみに見えています。6 月中旬にじの丘学園のホームページに、今年度から読解力を測る「リーディング・スキル・テスト」を取り入れたことが載っていました。このテストの正答率と全国学力テストの成績に相関があることを開発者の新井紀子氏は言っています。新井氏の著書には、教科書にある文章を使った例題が載っていましたが、私の正答率はギリギリ半分くらいでした。私には、教科書や新聞など、誰が読んでも分かるように書かれた文章を正確に読む力がないことを思い知らされました。このテストを取り入れたことで、子どもたちの読解力が育つとともに基礎的・基本的な学力向上が十分期待できるように思っています。次に、基本施策 7・29 ページ最後の「さわる展示」についてです。ここで書いたのは平成 17 年の展覧会でのことです。その後、「大学コンソーシアムせと」の「カレッジ講座」で、講師の先生がご自身の大学での「さわる展示」について話されました。瀬戸市でも「さわる展示」が常設されることを願っています。次に、基本施策 11・42 ページの最後です。各校のホームページでときどきさくらんぼ学園や瀬戸つばき特別支援学校の子どもたちとの交流記事を見ます。そして、さくらんぼ学園のホームページでも同じ交流について取り上げています。障害児と健常児を分離する現在の教育制度の中で、このような取組が行われていることに思い切り拍手したいと思いました。最後に、基本施策 22・76 ページです。先日、東山小から「ちょボラ通信」、つまり、「地域ボランティアだより」が届きました。そこには、取組に参加した方の感想が載っていました。少しだけ紹介します。モーニングサポート参加者の感想です。「下駄箱の使い方や荷物の整理など、毎日の積み重ねで上手になっていく姿が見られ、『できた！』と一緒に喜べるあたたかい時間となりました。」とありました。次に、町探検参加者の感想です。「子どもたちが『良いところを見つけた！』と楽しそうに教えてくれる姿が印象的でした。普段何気なく見ている地域も子どもたちの目線で見ること、新しい発見やたくさんの魅力があることを改めて感じました。」とありました。いずれも、子どもたちのための活動ですが、参加されたボランティアの方の学びにつながっていることがよく分かります。そして、地域ボランティアが信頼醸成に果たす役割の大きさを思わずにはいられません。この施策 22 に限らず、本プランのすべての施策を学校教育だけでなく、社会教育、生涯学習、そして、地域づくりの観点で考えることを忘れないようにしたいと思います。

た。なぜなら、すべての施策や取組を、医学モデルの立場ではなく社会モデルの立場に立って考えることが、理念実現には必要だと思うからです。

委員：にじの丘学園では、今年の6月に小学校5年生と中学校1年生の子どもたちがリーディング・スキル・テストを受けました。このリーディング・スキル・テストというのは、知識や情報を伝えるための文章を正確に読み解く力に特化した読解力のテストだと伺っています。教科書のどこに書いてあるのか分からないとか、先生の指示がよく理解できないとか、また、教科書の意味が理解できていない子どもがいるのではないかということを見ることができるという点を生かしながら、本校では授業改善につなげていきたいということで取り組み始めています。まだ学校全体の結果は出てきておりませんので、これからそれを詳しく分析して、夏休み中に教員の研修を学校全体で進めていきたいと思っています。今年全国大会が福島であると聞いていますので、本校の教務主任に福島県で勉強してきてほしいということを示しまして、勉強してもらったことを研修に生かしていきたいと考えています。

会長：言葉を話せたからとか、そういう言葉が聞けたからというのではなく、理解読解というのは、その中にある真相に迫ることができるかどうか、本当の意味で自分が使えるような力になっているかどうか非常に重要なことであり、大きな課題だと考えますので、この取組は大切なことだと思います。これから深めていただいて、先ほど研究大会があるということですが、それぞれの学習の在り方、学習指導の在り方、そういうようなものにつなげていけるような手立てを講じていただくようお願いしたいです。これから研究をしていかなければいけない余地がある大きな課題ではないかなと思っています。私も教育ということに特化して研究をしてきましたが、ここが一番難しいところであると思います。

事務局：リーディング・スキル・テストについて、事務局から補足をさせていただきます。今年度からにじの丘学園と光陵学園にてリーディング・スキル・テストを導入いたしました。意図としては、当たり前のように子どもたちは分かっているだろうということが、実は分かっていないということがありまして、教員側が知ることで授業改善に結びつけるというところで行っています。今年度始まりました取組ではありますが、福島県において先行実施しておりまして、そちらの報告書等を照らし合わせながら、本市でど

う生かしていけるかということを考えております。報告書をまとめまして、学校に展開できればと思っているところでございます。

委員：信頼されるという部分では、やはり地域の方と一緒に行うことは大事であると考えます。自分個人としては、公民館に体育館開放や学校開放の物を持って行く際にいろいろと声をかけてくださり、お話を伺うと、やはり学校からの捉えと地域の方の捉えに差ができているような気がしていて、学校がやってほしいことと地域ができることというのが、なかなかマッチしない部分があると思います。いま小学校、公民館、地区と連携させていただいていますが、いろいろな話を聞く中で、学校の中でできることがたくさん出てくるようになりました。また、学校としては、保護者の方があくまでも地域で一番身近なところにありますので、地域コミュニティ、コミュニティ・スクールや公民館と関わりながら、学校だけではなく、公民館やお祭りとかにも出ていただけたらというのが、目指すところじゃないかなと思っています。なかなか仕事が忙しいから参加できないという方が多いので、その辺りのことでこれから本校としては交流を深めていきたいと考えています。

会長：これは難しい問題であると思います。各学校はそれぞれ地域をお持ちですが、先生方はずっと同じ学校にいるわけではないですし、異動される中で、それぞれの地域の特徴や考え方の差を感じているかと思います。保護者の方、あるいは、広くその地域から信頼を得なければならないわけですが、その点において、学校を担当している校長先生を始めとする先生方と地域とのコミュニケーションがどのように形成されていくかによって違ってくると思います。

委員：私は公民館で企画や講座を担当し、行事の方にも携わっています。盆踊りを毎年子どもたちに教えていまして、昨年から東山小学校で行っていて、また、効範小学校ではもっと前から行っているのですが、初めは全学年に教えるために3日間かけて2学年ずつやっていました。校長先生が変わることもあったので、どうなることかと思ったのですが、続けてやっていまして、いまは1年生だけに教えています。踊り手さんたちも年配で、80歳過ぎの方が踊ってくださるのですが、その方たちはすごく喜んでやっていまして、この前も1年生が本当に元気に楽しそうにやってくれました。瀬戸音頭を教えるのですが、「瀬戸音頭は陶器ができるまでを表現している

んですよ」、「仕草で表しているんですよ」ということを説明しながらやっています。その際に、先生たちに頼らないとできないことがありますて、私たちは説明したり踊ったりすることはできるのですが、先生たちからしてみれば当たり前のことかもしれないですけども、一列に並んでいる状態から円になる隊形の変換とかを私たちでは指示ができないんですね。それを先生たちにスムーズにやれるようにしていただいたりとか、ちょっとしたことですが、先生たちとコミュニケーションを取りながらやらせていただいています。毎年夏祭りで教頭先生にはお世話になっています。朝早く、5時半から来ていただいて鍵を開けてもらったり、いろいろしていただいています。細かい打ち合わせとか、今はエアコンを設置するために工事が行われているので、敷地で使えるところと使えないところがあるとか、本当にこちらからするととても頑張っている先生方なので、とても感謝しています。それだけはお伝えしようかなと思いました。今年も夏祭りのときに輪投げのブースを手伝ってもらえないかという話をCSさん経由でお願いしたところ、10人来てくださるということだったので、いろいろなことにCSさん経由で私たちは助かっているところがあります。個人的にCSの方と仲良くさせていただいているのですが、コミュニケーションが上手くできていると信頼関係を築けるのではないかと思います。

会 長：小学校と公民館の関係は非常に上手くいっているのではないかと思います。瀬戸市全体でもそういった取組はされているのでしょうか。

委 員：本校でも地域の祭りに参加していただいたり、キャンプでトーチをやっているのですが、それを発表で出したりとか、地域と交流してやる機会はたくさんあると思います。

会 長：ありがとうございます。ここに関しましては、徐々に進んでいるということで、基本施策22の評定に関して言えば星二つですが、星三つに近いところの星二つかなと感じました。今後ともさらにご努力していただきますようお願いします。

委 員：基本施策10のところで、学校での体育について、体を動かすことが楽しいと感じてもらえるような取組をやっていただいているとは思いますが、そこに焦点を向けてやっていただけるとありがたいです。すべての市民が運動やスポーツを通じて心身の健康が増進していることを目指すということ

ですので、音楽ですとか、技術もそうかなと思うのですが、そういうものに関心を持てるような取組というのが、特に幼少期は大事なかなと思っていますので、引き続き努力をお願いしたいと思います。それから基本施策 17 について、関係される部局は本当に一生懸命取り組んでいただいているのを感じています。それから、こども若者家庭センターも立ち上げられてからずいぶんと認知が広がってきているかなと思っています。ただ、どんな施策もそうですが、やはり知らないという方がどうしてもいらっしゃいますので、周知する努力の継続が必要なんだろうなと思います。ぜひお願いしたいです。教育アクションプランそのものについても、最終的には承認が得られれば公表されるということですが、こういった内容かということに市民の方も関心を寄せて見ていただけると、もっと進化していくかなと思っていますので、周知というところについて、ぜひ努力をいただければと思います。これは要望でございます。

委員：すみません、読解力のところで言えばよかったなと思ったのですが、以前、フィンランドでデジタル教科書を使い始めて読解力の順位が下がったことから使用を止めたというような話がありました。「全国学力・学習状況調査」における学習状況調査について、過去 9 年間のデータが残っていましたので、分析をかけるツールを使用したところ、実際にはデジタル教科書が原因ではないような気がします。ICT 機器を使った授業の時間は増えていますが、うちの学校に限って言えば、土日に勉強する時間というのは、過去 9 年間で 1 時間以上減っています。また、全く勉強しないと答えた子どもも 4 割近く増えてきています。家庭で学習する時間がすごく減ってきたというのが現場の意見としてはあります。もう一つが、読書の時間を全くしないという子どもが今 4 割ぐらいとなっています。また、30 分以下というのが 7 割を占めています。読解力という部分でいくと、やはり活字に触れる機会がすごく少なくなっているというのがあるかなと思います。図書館教育とかそういうのもあるのですが、うちの学校は地域図書館がないため、学校の本しかありません。読書とか本を読む機会というのを増やしていかないといけないかなというのが、読解力の部分では感じています。いま自分が子どもたちに直接触れている場面での意見です。

会長：読解力というのは、特定の教科を勉強するだけではなくて、新聞を読んだり、いろいろな情報を集めたりすることで、考える力につながっていくと思っています。最近ではスマホとかそういうものに情報として出てくるこ

とから、書籍を読む機会が減ってきていると思います。私は附属小学校の校長をやっていたのですが、その際に感じたことは子どもたちの読書の力というのはものすごくあるということです。それはどのように表れてくるかというと、附属小学校では毎年多くの本を購入していきまして、その利用率がものすごく高いんですね。驚くほど子どもたちはよく本を読んでいる、電車に乗っているときに本を読んでいる子がいるのでよく見たら、附属小学校の子どもだったというぐらい、もうどこでも本を読んでいた。また、毎週定期的にものすごい量の本を借りている子どもたちがいるということが分かりました。やはり環境であったり、読むことの良さというものを感じてもらうことが大切であると思います。最近では、大人も活字離れが進んできているようでございます。読解力だけの課題ではないかもしれませんが、子どもに限らず、大人も含めて、読解力を育てていただくことをお願いしたいと思います。

会 長：他にご意見はございますか。ないようですので、この度提出された評価・報告について原案のとおり承認してよろしいでしょうか。よろしければ拍手をお願いします。

<拍手全員>

会 長：可決承認いただきましたので、この報告書については8月定例教育委員会に上程し、議決後、瀬戸市議会に報告し、公表することとなっています。

3 会長総括意見

吉田会長から今回の報告書に対する総括意見が述べられた。

4 教育長総評

加藤教育長から今回の報告書に対する意見提言へのお礼及び総評が述べられた。